



文化交流施設整備基本構想 骨子案

令和6年6月27日

市原市 都市部 拠点形成課

I 事業概要

■ 目的

拠点別整備基本計画（五井編）で位置付けた文化交流ゾーンにおいて、**現市民会館の機能移転を念頭に、音楽と芸術の交流拠点機能等**（⇒「**文化交流施設**」）を整備する。



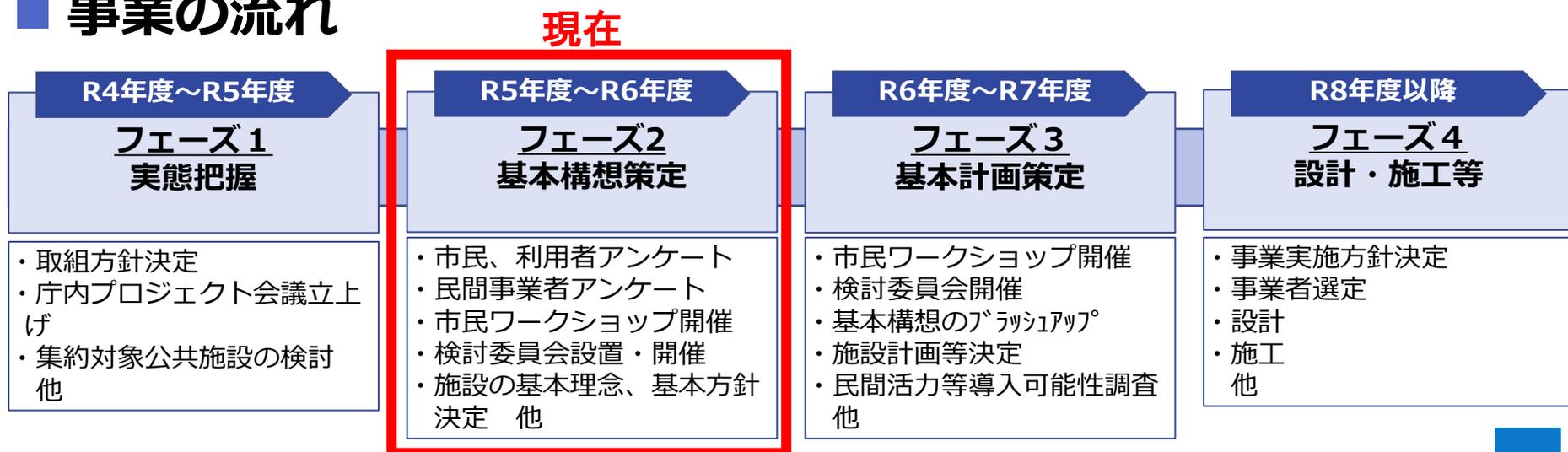
※イメージ図

I 事業概要

■ 経緯

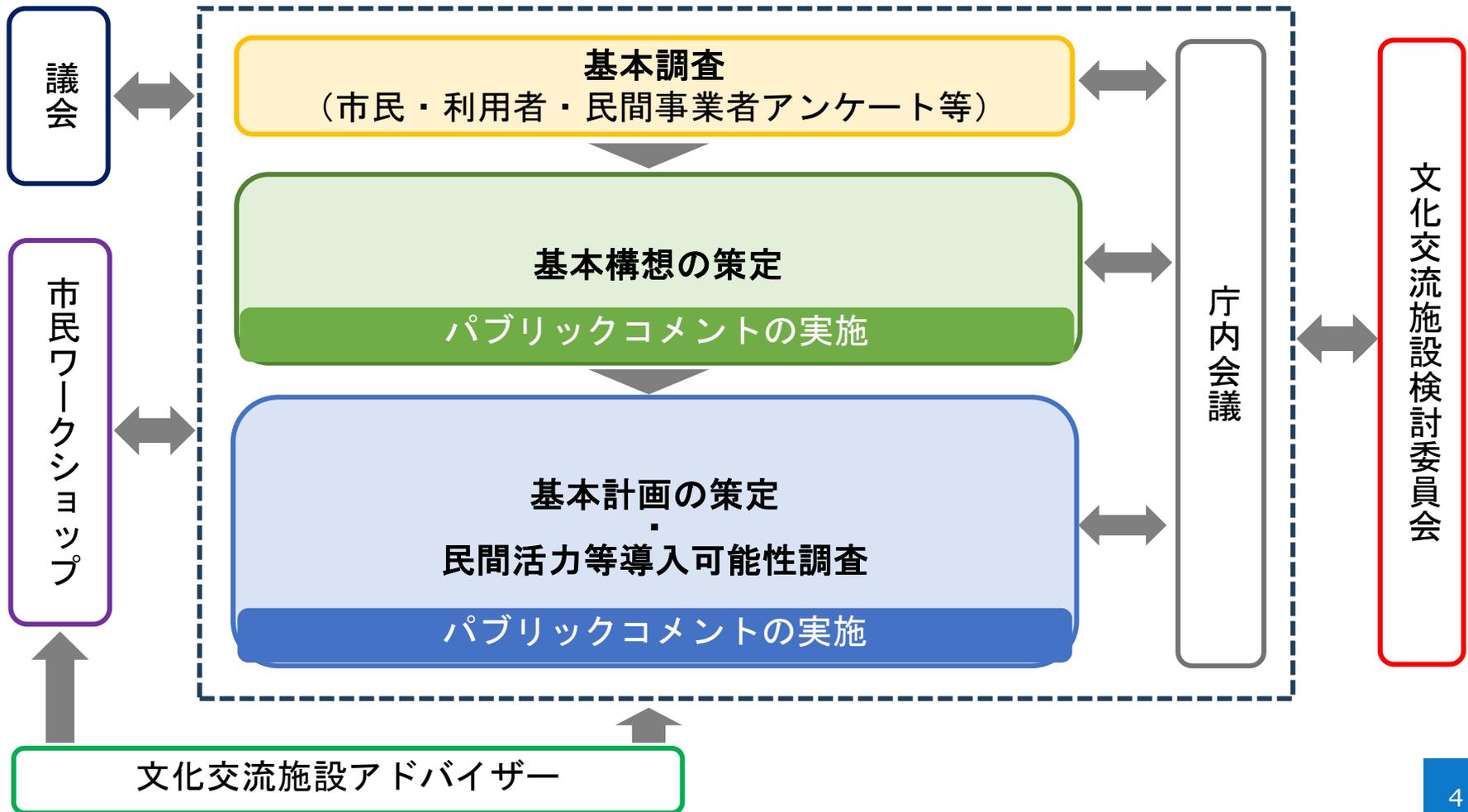
- 令和3年3月 市原市拠点まちづくりビジョン策定
- 令和4年10月 市原市拠点別整備基本計画（五井編）策定
- 令和4年11月 「文化交流施設の整備に係る取組方針」決定
- 令和5年10月～ 基本調査（市民・利用者・民間事業者アンケート等）の実施、市民ワークショップ・検討委員会の開催

■ 事業の流れ



I 事業概要

■ 文化交流施設整備に係る基本構想・基本計画の策定、民間活力等導入可能性調査の検討フロー



Ⅱ 現状

■ 市原市市民会館の現状

所在地 : 千葉県市原市惣社一丁目1番地1

開館 : 1974年5月29日（開館から49年経過）

敷地面積 : 19,873.95m²

延床面積 : 11,802m²

建築面積 : 6,426m²

施設機能 : 大ホール（1,527席）、小ホール（491席）、
会議室 3室（定員42名/室）、茶室（6畳）、和室 等



大ホール



小ホール

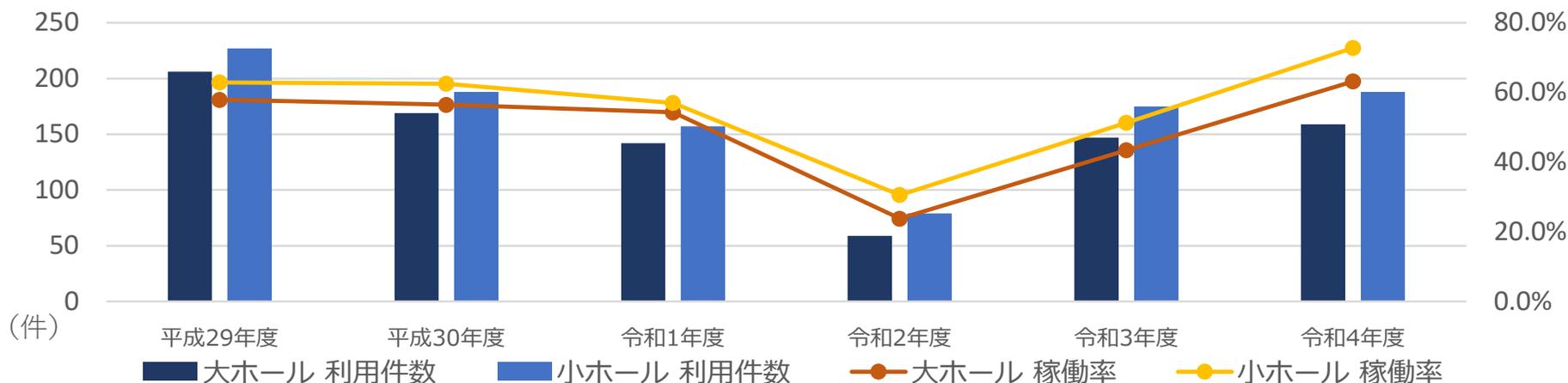
Ⅱ 現状

■ 市原市市民会館の施設利用状況

* 稼働率 = 利用日数 / 利用可能日数

		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度※	R3年度	R4年度※
利用件数 (件) [稼働率]*	大ホール	206 [57.9%]	169 [56.5%]	142 [54.3%]	59 [23.8%]	147 [43.4%]	159 [63.2%]
	小ホール	227 [62.9%]	188 [62.5%]	157 [57.0%]	79 [30.6%]	175 [51.3%]	188 [72.8%]
利用人数 (人)	大ホール	119,327	105,100	85,017	14,608	46,139	60,680
	小ホール	50,338	44,169	31,537	9,923	21,950	30,490

※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い利用停止期間・利用人数制限あり
 ※R4年度はホール棟の改修工事のため休館期間あり（休館期間：4月～6月）



【利用件数及び稼働率の推移】

Ⅲ 基本調査の結果

- **ニーズの把握** ・ ・ ・ 既存施設の利用実態や課題、文化交流施設へのニーズ等を把握するため、以下①～④の調査を実施した。

①市民アンケート調査（満16歳以上の無作為抽出した市民4,000名）

- ・ 実施時期：令和5年11月～令和5年12月
- ・ 回答数：1,028件（回収率25.7%）※暫定値
- ・ 主な設問項目：

既存施設の利用状況（利用目的、交通手段、良い点・困った点）、文化交流施設のあり方について（施設面・運用面で重視すること、機能集約・再編に対する考え方）等
- ・ 主な回答
 - **文化交流施設の整備の方向性**として、「**駐車場や駐輪場**の広さ・台数にゆとりがある施設」「災害時への備えなど**安全・安心**な施設」「様々な施設が複合し、市民による**多様な活動や交流**が生まれる施設」が多かった（各約5割）。
 - **文化交流施設に期待する取組やサービス**として、「**大規模な催し・イベント・コンサートの誘致・開催**」が多かった（約5割）。
 - **機能集約・再編による効率的・効果的な事業推進**については、「**文化交流施設の方向性を踏まえたうえで、可能な範囲で取り組んだほうがよい**」が多かった（約4割）。

Ⅲ 基本調査の結果

②市外居住者向けアンケート調査（満16歳以上の県内居住者を対象としたWebアンケート）

- ・実施時期：令和6年1月
- ・回答数：420件（京葉エリア以南の7エリア×60票）
- ・主な設問項目：

市原市への来訪経験、来訪目的、文化ホールの利用経験、市原市の文化交流施設について（利用意向、重視する点）等
- ・主な回答
 - 直近5年間に市原市へ来訪したことが「ある」と回答したのは、全体の約6割であり、来訪目的は「買い物・食事」（約6割）や「観光・レジャー」（約3割）が多かった。
 - 直近10年間に文化ホール等を利用したことが「ある」と回答したのは、全体の約4割であり、利用した施設としては、千葉県文化会館が約25%と最も多く、市原市市民会館は約11%であった。
 - **文化交流施設を利用する上で特に重視する点**として、「**市原市まで足を延ばしてでも参加したいと思える催し**」が多かった（約7割）。
 - 「**駐車場や駐輪場の広さ・台数にゆとりがある**」「**公共交通でのアクセス**がよい」「**鑑賞するための環境**が優れている」が比較的多かった（各約3割）。

Ⅲ 基本調査の結果

③利用者アンケート調査（市民会館、五井公民館、生涯学習センター利用者）

- ・実施時期：令和5年10月～令和5年11月
- ・回答数：115件
- ・主な設問項目：

既存施設の利用状況（利用目的、交通手段、良い点・困った点）、文化交流施設のあり方について（施設面・運用面で重視すること）等

※主な回答は、次ページ参照。

Ⅲ 基本調査の結果

・利用者アンケート調査の主な回答

- ▶ **文化交流施設の施設面（機能、空間・建物、設備）で特に重視することとして、次の回答が多かった。**
 - ・「**駐車場や駐輪場**の広さ・台数にゆとりがある施設」
 - ・「様々な施設が複合し、市民による**多様な活動や交流**が生まれる施設」
 - ・「利用・活動を支える設備が充実し、**高い利便性・快適性**を備えた施設」
- ▶ 特に市民会館利用団体からは、「**ホールの音響性能や舞台装置等が優れた施設**」の回答も多かった。
- ▶ **文化交流施設の運営面（サービス内容、取組）で特に重視することとして、次の回答が多かった。**
 - ・「市民が**文化芸術に触れる**ことができる場や機会の充実」
 - ・「**大規模な催し・イベント・コンサート**の誘致・開催」
 - ・「市民が**生涯学習**を楽しめる場や機会の充実」
- ▶ 特に市民会館利用団体からは、「**小規模なイベント・発表会**の場や機会の充実」や「**市民が文化芸術を創造・発表**することができる場や機会の充実」の回答も多かった。

Ⅲ 基本調査の結果

④ 民間事業者意向調査（ホール・アリーナ運営企業、不動産企業、建設企業）

- ・ 実施時期：令和5年12月～令和6年1月
- ・ 回答数：21社（ホール・アリーナ運営企業：7社 / 不動産企業：4社 / 建設企業：10社）
- ・ 主な設問項目： 導入が想定される民間機能、文化交流施設におけるホール・アリーナ機能について（規模、整備運営方法）、本事業への関心 等

※主な回答は、次ページ参照。

Ⅲ 基本調査の結果

・ 民間事業者意向調査の主な回答

- 導入が想定される民間機能としては、**カフェなどの「飲食」やコンビニなど「物販」**が多かった。その他、特徴的なものとして、「子どものアート広場や室内遊び場」「シェアサイクルステーション」「有料の駐車場・駐輪場」「スポーツジム」「クリニック」などが挙げられた。
- **望ましい大ホールの席数**については、県中部～南部の拠点施設となる可能性や、全国ツアーの誘致が可能となるといった理由から**「1,500席」～「2,000席」**が多かった。
- **想定されるアリーナの規模**については、近郊にアリーナが複数あることなどの理由から、**市民利用中心の小規模（収容人数3,000人程度）～中規模（収容人数5,000人程度）**が多かった。
- **アリーナの運営**については、市を拠点とする室内プロスポーツチームが存在しないことから、**安定した収益が確保できない**との回答が複数挙げられた。
- **アリーナ機能の導入**については、**立地や想定される利用内容では、事業採算性が見込めない**との回答が多かった。
- **文化交流施設整備への関心**については、**16社より「大変関心がある」又は「関心がある」**との回答が得られた。

IV 市民ワークショップ等の開催状況

■ 市民ワークショップ（メンバー構成：関係団体、高校生、公募市民）

※令和5年度～令和7年度の間、全8回程度開催予定

● 第1回 令和5年10月29日 24名参加

- テーマ：①既存施設やまちのじまん・ふまん
②文化交流施設によって変わる未来像



➤ 主な意見

- ・じまんとしては「**有名アーティスト**の全国ツアー公演のスタート会場になることが多い」、「**自然が豊か**」、ふまんとしては「**アクセスが悪い**」、「**古い・バリアフリーでない**」、「**駅周辺の賑わいが不足**」等の意見が多く挙げられた。
- ・文化交流施設で変わる未来像として、「**誰もがいつでも訪れる**」、「**用事がなくても行きたくなる場所**」等の意見が多く挙げられた。

● 第2回 令和5年12月2日 28名参加

- テーマ：文化交流施設の年間スケジュールを考えよう
- 主な意見

- ・**プロの大型公演**を観たいという意見がある一方で、**市民自らが参加・体験するイベント**を重視する意見も多く挙げられた。
- ・「外での演奏会」など、**屋外イベント**のアイデアも多く挙げられた。

IV 市民ワークショップ等の開催状況

● 第3回 令和6年2月17日 29名参加

- テーマ：①「交流」ってなんだろう？まちと、地域とつながるには？
②必要な機能を考えよう
- 主な意見
 - ・ 交流が生まれるためには、「誰もが気軽に集まれる場所やイベント」「交流する相手に対する気持ち（興味・行動力・共感）」等が必要といった意見が挙げられた。
 - ・ まちと地域がつながるには、「文化交流施設を拠点に地域の人や企業等を巻き込んだイベントの開催」「駅からの動線づくり」「アートミックス等との連携」「情報発信」等が必要といった意見が挙げられた。
 - ・ 必要な施設機能としては、「フェスやコンサートができるホール」「防音機能を備えた練習室やリハーサル室」「フリースペースやオープンスペース」「市民ギャラリー」「カフェやフードコート」等の意見が挙げられた。

IV 市民ワークショップ等の開催状況

● 第4回 令和6年5月11日 21名参加

➤ テーマ：必要な機能を具体的に考えよう！

➤ 主な意見

- ・ 「**大ホール**」について、「**オーケストラが演奏できる**」「**大規模コンサートができる**」等の使い方に関する意見や、その規模に関する「**1,500人**」「**1,500～1,600人**」等の意見が挙げられた。
- ・ 「**小（中）ホール**」について、「**市民団体でも使いやすい**」「**ファミリーで楽しめる**」等の使い方に関する意見や、その規模に関する「**200人**」「**500人～600人**」「**700人**」等の意見が挙げられた。
- ・ その他の必要諸室については、「**発表会などにも使えるリハーサル室**」「**練習室（楽器系／踊り系）**」「**バンド練習ができる部屋**」「**会議室**」「**市民ギャラリー**」「**創作室**」「**和室、茶室**」「**子供が遊べるスペース**」「**読書や勉強、話し合いができるスペース**」「**交流ができるスペース**」「**飲食できるスペース**」等のさまざまな意見が挙げられた。
- ・ 外部空間については、「**公園のような空間**」「**野外ステージ**」「**広い駐車場**」等の意見が挙げられた。

IV 市民ワークショップ等の開催状況

■ 文化交流施設検討委員会 （委員構成：学識経験者、関係団体、公募市民）

● 第1回 令和5年11月20日

- 議事：文化交流施設の整備について
 - ・これまでの取組について
 - ・今後の取組について

➤ 主な意見

- ・館内だけでなく、館外にも休憩場所、交流の場がある視点も重要と思われる。また、五井駅東口エリアでは、ウォークブル空間の形成に関するプロジェクトも展開しているので、その繋がりを意識するとよい。
- ・今後整備する文化交流施設は、半世紀後まで使えるものになるよう考えていく必要がある。



● 第2回 令和6年2月28日

- 議事：文化交流施設整備の取組状況について（中間報告）
- 主な意見

- ・市原市にあるものを活かして、特徴のある施設とすることが重要である。
- ・外から人を呼ぶための他市との差異という視点の他、住んでいる人が魅力を感じ、日常的に使う場所としての特徴という視点もある。

● 第3回 令和6年5月30日

- 議事：文化交流施設の基本理念・基本方針等について（P40参照）

V 文化交流施設への機能集約

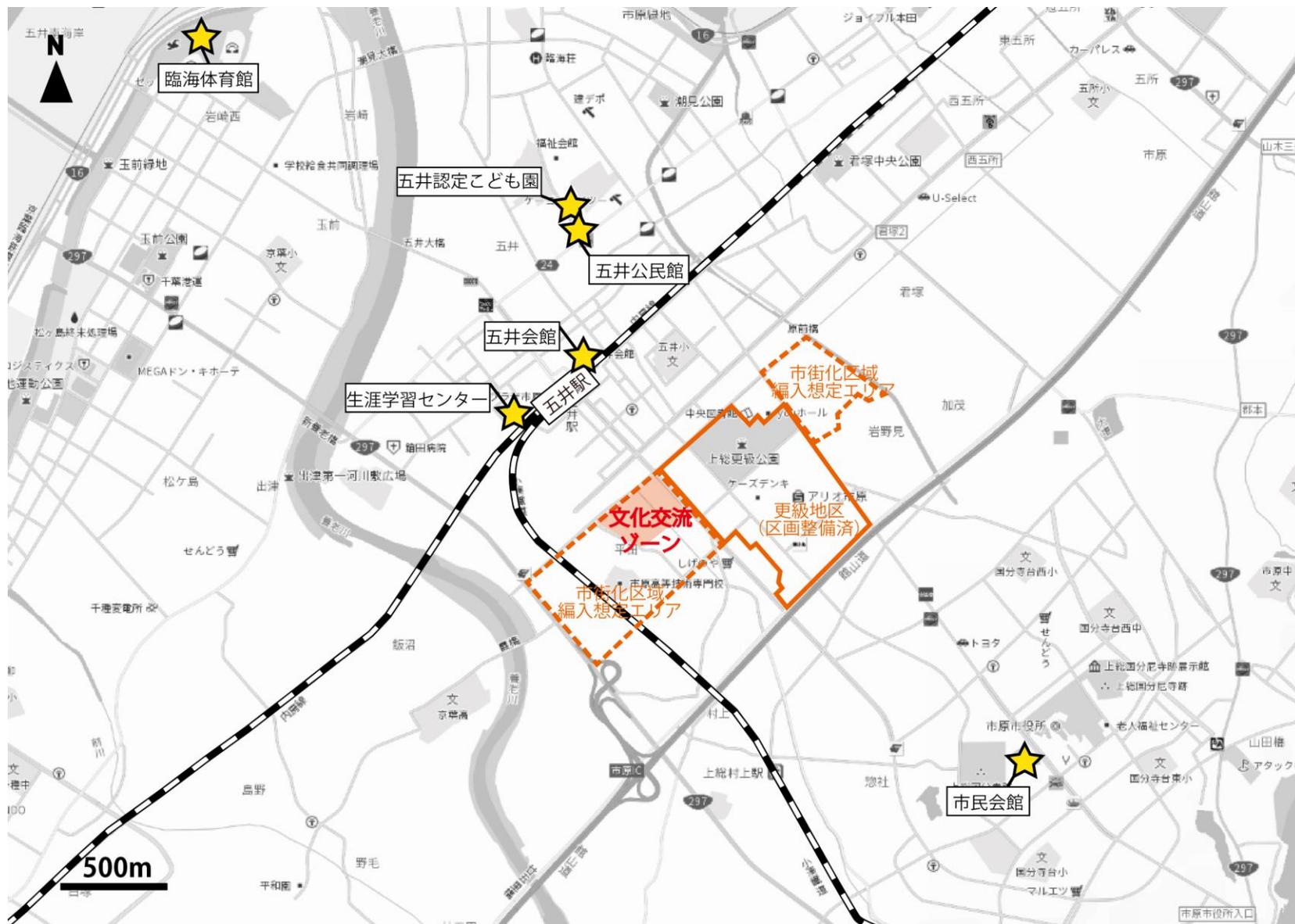
■ 文化交流施設へ機能集約する公共施設の方向性

拠点まちづくりや施設の圏域等の特性に留意するとともに、市民等の意見を参考に、以下の公共施設について機能集約の方向性を検討・整理した。

施設名	圏域	竣工年	規模等	運営	諸室・備考等	集約の方向性
市民会館	広域	1974年	会議室棟： 3,463㎡ ホール棟： 8,339㎡	指定 管理	大ホール、小ホール、会議 室、茶室、和室、宴会室等	○ 集約する (移転)
臨海体育館	広域	1968年	2,749㎡	指定 管理	アリーナ、ステージ、会議 室、映写室等	× 集約しない
五井公民館	地域	1978年	3,433㎡	指定 管理	体育室、会議室、研修室、 視聴覚室、茶室、和室、実 習室、調理室、図書室等	× 集約しない
生涯学習 センター	広域	1995年 ※2013年 開館	206.68㎡ ※サンプラ ザ市原内	直営	学習室、冊子情報コーナー、 インターネットスペース、 ミーティングスペース等	○ 集約する (移転)
五井認定 こども園	地域	1974年	1,122㎡	直営	保育室等 ※暫定的に2020年5月よ り旧若葉保育所に移転	× 集約しない
五井会館	広域	1981年	3,053㎡ ※大ホール は645㎡	直営	大ホール等	○ 大ホール機能 を集約する

V 文化交流施設への機能集約

【集約検討公共施設の位置図】



V 文化交流施設への機能集約

■ 市民会館についての集約の考え方

- 「公共施設再配置基本方針」から一部要約
市民会館は、市の文化振興における文化芸術活動の中心施設として、適切な維持管理と機能向上に取り組み、更新等の時期に合わせて客席数の適正化や、機能集約等の可能性を検討する。
- 「市原市市民会館個別施設計画」から抜粋
建替え、新設にあたっては、将来需要を見据えた適正な規模、適正な形態をまちづくりの観点も踏まえ、現在の敷地に限定することなく広く検討する。
- 拠点別整備基本計画（五井編）において、文化交流ゾーンに市民会館の老朽化状況も踏まえながら、音楽・芸術の交流拠点機能を整備するものとしている。
- 「文化交流施設の整備に係る取組方針（令和4年11月決定）」において、現市民会館の機能移転を念頭に、文化交流ゾーンの核となる施設整備を行うものとしている。



これらを踏まえ、**市民会館は集約（移転）する。**

V 文化交流施設への機能集約

■ 市民会館（ホール）機能に関する検討

①現状と課題

✓ さらなる稼働率の向上

令和4年度の市民会館の稼働率は、大ホールが約63%、小ホールが約73%となっており（P6参照）、千葉県内の1,500席を超える大規模ホールを持つ施設の平均稼働率は、大ホールが約80%、小ホールが約75%となっている（千葉県公立文化施設協議会による「令和4年度 利用率集計表」）。

→県内の同規模等施設の平均値よりも低い稼働状況であることから、さらなる稼働率の向上を目指すものである。 ※上記稼働率は、利用日数／利用可能日数により計算

✓ 大規模な催し・イベント・コンサートの誘致・開催

市民アンケート及び利用者アンケートでは、大規模な催し・イベント・コンサートへの期待が大きく、市民ワークショップでも、市民会館について「全国ツアーの始点になる」「大物アーティストが来る」といったことを評価する意見が複数挙げられた。

→大規模な催し・イベント・コンサートの誘致・開催について検討が必要である。

✓ 五井駅周辺の賑わいと魅力の向上

拠点まちづくりビジョンにおいて、五井駅周辺のまちづくりの方向性として「文化と教育を核に、多様な人が集う中心拠点」としている。また、同ビジョンの具現化に向け、拠点別整備基本計画（五井編）において、文化交流ゾーンは「音楽・芸術の交流拠点機能の整備」を検討するものとしている。

→五井駅周辺の賑わいと魅力の向上に向けた施設整備が必要である。

②文化芸術・エンターテインメント市場の動向

✓ 近年の文化ホールは、平成24年度に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」において、文化芸術の継承、創造、発信の場だけでなく、**地域コミュニティの創造や発展を支える機能**が望まれている。

✓ 社会動向としては、Bリーグ（2016年）の発足など、スポーツの産業化の兆しが表れ、「ECSA（エクサ）」の創設など、**スポーツとエンターテインメントの両輪で新たな楽しみを創出し、利便性高く、経営的に成立しうるスタジアム・アリーナ整備を推進**する潮流がある。

V 文化交流施設への機能集約

③周辺のホール及びアリーナの整備状況

- ✓ 市原市隣接地域には、中規模ホールが多く、1,500席を超える大規模なホールは市原市市民会館（1,527席）と千葉県文化会館（1,790席）のみである。千葉県全域をみても、大規模ホールは、市川市文化会館（1,758席）、松戸市文化会館森のホール21（1,955席）のみとなっている。
- ✓ スポーツにもコンサート等にも利用できるアリーナは、近隣では千葉ポートアリーナ（固定席4,380席 最大7,512名収容）がある他、幕張メッセイベントホール（最大9,000人収容）もコンサート等に多く利用されている。
- ✓ 民間施設としては、船橋市において、Bリーグチームのホームアリーナとして利用が決定している（仮称）LaLa arena TOKYO-BAY（1万人規模）が2024年に開業予定である。



市民会館（ホール）機能へのアリーナ機能の導入可能性の検討

- ✓ 市民会館（ホール）機能を文化交流施設に集約するにあたっては、さらなる稼働率の向上、五井駅周辺の賑わいと魅力の向上に向け、より集客性が高い大規模エンターテインメント等にも対応することを想定し、アリーナ機能の導入可能性についても検討した。
- ✓ アリーナ機能の導入可能性については、立地や周辺地域におけるホール及びアリーナの整備状況、コスト、現市民会館機能の維持、民間事業者意向調査の結果等を十分に踏まえ検討した。

V 文化交流施設への機能集約

文化交流施設における市民会館機能の整備パターンは以下の①～③が想定される。

【市民会館機能の整備パターン】 1/2

	①アリーナ機能をホール機能と別に備える場合	②アリーナ機能をホール機能と兼ねる場合	③アリーナ機能を備えない場合
概要	大・小ホールに加え、アリーナを整備	アリーナ兼ホールと小ホールを整備	アリーナは整備せず、大・小ホールを整備 ※現市民会館と同様
コスト	<p>大</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築費及び用地費が増大 	<ul style="list-style-type: none"> 建築費が増大 	<p>小</p>
現市民会館機能の維持	<p>【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> アリーナは、音響性能が吹奏楽やクラシックコンサート等に適さない。 大ホールを整備することから、現市民会館機能（クラシックコンサート等）を維持できる。 	<p>【×】</p> <ul style="list-style-type: none"> アリーナは、音響性能が吹奏楽やクラシックコンサート等に適さない。 大ホールを整備しないことから、現市民会館機能（クラシックコンサート等）は維持できない。 	<p>【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現市民会館機能（クラシックコンサート等）を維持できる。

V 文化交流施設への機能集約

【市民会館機能の整備パターン】 2/2

	① アリーナ機能をホール機能と別に備える場合	② アリーナ機能をホール機能と兼ねる場合	③ アリーナ機能を備えない場合
概要	大・小ホールに加え、アリーナを整備	アリーナ兼ホールと小ホールを整備	アリーナは整備せず、大・小ホールを整備 ※現市民会館と同様
興行	【◎】 <ul style="list-style-type: none"> 施設としては、大規模エンターテインメントやプロスポーツの興行が可能。 	【◎】 <ul style="list-style-type: none"> 施設としては、大規模エンターテインメントやプロスポーツの興行が可能。 	【○】 <ul style="list-style-type: none"> 現市民会館と同様の興行が可能。
民間事業者意向調査の結果	【×：アリーナの需要が見込めない】 <ul style="list-style-type: none"> 既に都心近郊や近隣市にアリーナが複数あり、立地上、市原市が大規模エンターテインメントの会場として選択される可能性は低い。 市原市においては、大規模アリーナではなく、小規模（3,000人）～中規模（5,000人）アリーナが想定されるが、市を拠点とする室内プロスポーツチームが存在しないため、安定した収益を確保できない。 アリーナ機能の導入については、立地や想定される利用内容では事業採算性が見込めないとの回答が多かった。 		—

V 文化交流施設への機能集約

【市民会館機能の整備パターン】まとめ

	①アリーナ機能をホール機能と別に備える場合	②アリーナ機能をホール機能と兼ねる場合	③アリーナ機能を備えない場合
概要	大・小ホールに加え、アリーナを整備	アリーナ兼ホールと小ホールを整備	アリーナは整備せず、大・小ホールを整備 ※現市民会館と同様
コスト	×	△	○
現市民会館機能の維持	○	× 吹奏楽やクラシック不可	○
興行	◎	◎	○
民間事業者意向調査の結果	× アリーナの需要が見込めない		—



文化交流施設にアリーナ機能は導入しない。

※なお、ホールやその他諸室等の規模等については、今後検討する。

V 文化交流施設への機能集約

■ 臨海体育館についての集約の考え方

- 臨海体育館は、スポーツ施設が集約されている市原緑地運動公園内に設置されており、主にバスケットボール、バレーボール、バトミントン等の室内競技に利用されている。
- 拠点別整備基本計画（五井編）の他、市の上位計画において、文化交流ゾーンやその周辺に「スポーツ施設」の立地を誘導する位置づけはない。
- 文化交流施設に、コンサートやスポーツ等にも利用できる「アリーナ機能」は導入しないものと整理した。（P25参照）
- 仮に文化交流ゾーンに集約した場合、ホールと体育館でのイベント等が重なった際に混雑が生じ、周辺の住環境や道路環境等へ悪影響を与える可能性がある。



これらを踏まえ、**臨海体育館は集約しない。**

※なお、臨海体育館については、老朽化が著しいことや、スポーツ団体から公式試合等に対応できる体育館の整備に関する要望があることなどを踏まえ、今後、施設のあり方等を検討する必要がある。

V 文化交流施設への機能集約

■ 五井公民館についての集約の考え方

- 五井公民館は、地域での利用を主体とする施設であり、利用者アンケート調査でも、五井地区を活動エリアとする利用団体が約98%を占めている。
- 利用者アンケート調査では、五井駅西口周辺の市民活動拠点として継続を強く希望する等の意見が複数あった。
- 市民会館機能と類似する機能として会議室等があるが、全市的な利用を主体とする市民会館機能と集約・複合化した場合、現五井公民館利用者等が会議室等を利用しにくくなる可能性がある。
- 市民アンケート調査では、五井地区に居住している市民のうち、五井公民館を「文化交流ゾーンに移転したい」と回答した割合は約15%と比較的少数だった。
- 五井公民館を文化交流施設に集約した場合、五井駅西口側の公共施設が減少し、駅東西間での公共施設の配置バランスに偏りが生じる。



これらを踏まえ、五井公民館は集約しない。

V 文化交流施設への機能集約

■ 生涯学習センターについての集約の考え方

- 生涯学習センターは、市の生涯学習推進の中核的施設として設置されており、主な事業として、いちほら市民大学を実施している。
- いちほら市民大学受講者を対象とした利用者アンケート調査では、利用者の年齢は60歳代～70歳代が約7割であり、居住地は市全域に分布している。主な交通手段は、自家用車が約50%、公共交通機関が約33%であった。
- 施設に対し最も満足している点としては、「立地がよい」が約50%であり、五井駅直結の立地を評価していることが見受けられる一方、満足していない点としては、「駐車場の台数が不十分」が約43%であった。
- 文化交流施設の運営面で重視することとしては、「市民が生涯学習を楽しめる場や機会の充実」が約43%であり、生涯学習センター利用者が文化交流施設において、生涯学習の場や機会の充実を期待していることが見受けられた。



これらを踏まえ、生涯学習センターは集約（移転）する。

V 文化交流施設への機能集約

■ 五井認定こども園についての集約の考え方

- 以前は五井駅東口に立地していたが、施設の老朽化対策のため、暫定的に旧若葉保育所園舎を使用している。
- 施設管理者からは、「園児の飛出防止や不審者の侵入防止のため、施設外周を柵やフェンス等で囲む必要がある」、「防犯上、不特定多数の人が出入りする施設との合築ではなく、単独敷地が望ましい」等の意見があった。
また、類似事例として、八幡宿駅西口複合施設においても、園児の安全、防犯面等の課題から、八幡認定こども園は単独での建て替えとしている。
- 仮に文化交流ゾーンに集約する場合、朝夕の送迎時に混雑が見込まれることから、文化交流施設等と動線を分ける必要がある。



これらを踏まえ、**五井認定こども園は集約しない。**

※なお、移転先や施設規模等については、今後検討する必要がある。

V 文化交流施設への機能集約

■ 五井会館についての集約の考え方

- 五井会館は、老朽化が著しく、現在は3階の事務室及び4階の大ホール以外は低未利用の状況である。
- 大ホールは、広さ645m²の多目的ホールであり、部屋の広さを活かした大人数での会議など様々な用途に利用されている。
- 老朽化に伴う施設・設備の不具合や駐車場不足により、利用に支障をきたしている。
- 大ホールは、現市民会館の会議室機能と類似しており集約化の効果が期待される。



これらを踏まえ、**五井会館の大ホール機能は集約する。**

※五井会館は、老朽化が著しいことや好立地であることから、今後、施設のあり方等を検討する必要がある。

VI 基本理念・基本方針（案）

■ 基本理念・基本方針に反映すべき文化交流施設整備における考え方

事業の位置づけや各種ニーズ調査、ワークショップ等の結果から、文化交流施設整備におけるキーワードを以下に抽出した。

五井駅周辺の魅力向上	文化芸術の振興	いつでも気軽に立ち寄れる
まちの顔になる	発表会やリハーサル利用	市原の魅力
定住人口増	大規模な催し	自然・歴史・アートなど
施設の外・まちにひろがる	音響性能	伝わる情報発信
市外からの利用促進	市原まで足を延ばしたい	バリアフリー
子育て世代・若者の利用促進	参加・体験型	災害時への備え
ウォークブル空間形成	多様な交流	環境への配慮

基本理念・基本方針（文化交流施設の目指すべき方向性）

VI 基本理念・基本方針（案）

文化交流施設の基本理念・基本方針（案）を以下に示す。

基本理念（案）

まち・文化・ひとが育つ場所
～いちはらを元気にする交流拠点～



VI 基本理念・基本方針（案）

基本方針（案）

1 まちにひろがる拠点づくり

たくさんの人が訪れ、市民から愛される魅力的な空間を創り出し、市の玄関口である五井駅周辺からいちはらを元気にする施設を目指します。

- ✓多様な市民・来訪者が集い、新たな賑わいが生まれ、まちの活性化につながる場
- ✓魅力的な催しや特徴ある拠点づくりで、いままで市民会館を利用していなかった人も楽しむことができ、市内外のより多くの人に利用される場
- ✓更級通りや周辺施設と連携し、居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブルな空間」

2 文化芸術が育つ・身近になる

文化振興の中心拠点として、いちはらの文化を発展・継承するとともに、房総エリアの文化芸術活動を牽引する施設を目指します。

- ✓参加・体験できるイベント等を通し、気軽に文化芸術に触れることで、文化芸術やその活動を行っている人への関心が生まれ、理解が深まる場
- ✓文化芸術活動を行う市民が日常的に発表や練習に利用しやすく、市民の文化芸術活動を支える場
- ✓大規模な催しが可能なホールを備え、市外からも多くの利用者呼び込める場
- ✓新たな文化芸術活動が生まれ、育まれる場

VI 基本理念・基本方針（案）

基本方針（案）

3 ひとの交流が生まれる・ひろがる

「ここに来ればだれかと話せる」「様々な活動をしている人と出会える」「新しいまちを発見できる」など、世代・地域・ジャンルを超えた多様な交流が生まれ、その交流がまち全体にひろがる施設を目指します。

- ✓文化芸術に限らず、生涯学習や地域活動など、多様な活動を支える場
- ✓それぞれの地域で活動する人や学生、高齢者など、普段は接点を持ちにくい人どうしが出会い、新たな交流や活動が生まれ、ひろがる場
- ✓だれでも気軽に利用でき、用事がなくても立ち寄れる、子育て世代や学生などの居場所にもなる場

4 いちはらの魅力を発信する

まち・文化・ひとの魅力を市内外に広く発信し、市内外からの新たな人の流れを創出するとともに、その魅力を次の世代に伝え、より高めていくための施設を目指します。

- ✓来訪者が、いはらの魅力を発見・再発見できる場
- ✓いはらの自然や歴史文化遺産、アートなどに触れられるとともに、まちへの愛着や誇りを育む場
- ✓だれがどのような活動をしているかを「見える化」し、ひとや活動の魅力を発信する場

VI 基本理念・基本方針（案）

基本方針（案）

5 快適で安心・安全な「みんなの施設」

だれもが快適に利用できる、安心・安全で持続可能な施設を目指します。

- ✓バリアフリー・ユニバーサルデザインに対応し、障がいのある方、子育て世代、若者、高齢者、外国人などだれもが安心して快適に利用できる施設
- ✓緑があふれ、来訪者に安らぎや癒しを与える施設
- ✓地震や洪水などの災害から市民や施設利用者を守る、安心・安全な施設
- ✓環境負荷が小さく、持続可能な施設

VII 施設整備の考え方

■ 必要機能の検討

文化交流施設に導入する主な機能及び想定する整備内容を以下に示す。

機能	想定する整備内容	
ホール機能	大ホール	・ 客席、舞台、ホワイエ、楽屋、技術諸室など、 <u>大小ホールに付随して必要な諸室</u> を設ける。
	小ホール	
創造活動・交流・ 発信機能	・ <u>五井会館の大ホールの代替</u> として、講演会やイベントの他、ダンス練習や体操教室など多目的に使える空間を設ける。 ・ <u>リハーサルや大人数での練習に利用</u> できる空間を設ける。 ・ <u>交流、作品展示、練習、発表など利用者の多様な活動や情報発信等に活用できる空間</u> を設ける。 ・ 子育て世代や学生などの <u>居場所になる空間</u> を設ける。	
会議・生涯学習機能	・ 現市民会館にある <u>会議室、和室などの諸室</u> を設ける。 ・ <u>生涯学習センターで行っている講座などが実施できる諸室</u> を設ける。	
管理運営機能	・ 事務室等、施設の管理運営に必要な諸室を設ける。	

VII 施設整備の考え方

■ ホール席数の検討【大ホール（現状1,527席）】

- 現市民会館大ホールの利用実態は、1,300人以下の利用が大半である一方、1,300人以上での利用も全体の約1割ある。また、1,500人程度の利用もある。
- 各種調査や市民ワークショップでの意見

区分	ホール機能に関する意見
市民アンケート	期待する取組やサービスとして、 <u>「大規模な催し・イベント・コンサートの誘致・開催」</u> が多かった。
市外居住者向けアンケート	利用する上で特に重視する点として、 <u>「市原市まで足を延ばしてでも参加したいと思える催し」</u> が多かった。
利用者アンケート	運営面（サービス内容、取組）で特に重視することとして <u>「大規模な催し・イベント・コンサートの誘致・開催」</u> が多かった。
民間事業者意向調査 (ホール・アリーナ運営企業等)	望ましい大ホールの席数については、 <u>県中部～南部の拠点施設</u> となる可能性や、 <u>全国ツアーの誘致</u> が可能となるといった理由から <u>「1,500席」～「2,000席」</u> が多かった。
プロモーター意向調査	興行者目線としては <u>「1,500席以上」</u> が多かった。
市民ワークショップ	使い方として「オーケストラが演奏できる」「大規模コンサートに利用できる」等、規模として <u>「1,500～1,600席」</u> 等が挙げられた。

 **大ホールは1,500席程度を想定する。**

VII 施設整備の考え方

■ ホール席数の検討【小ホール（現状491席）】

- 現市民会館小ホールの利用実態は、300人までの利用が全体の9割を占め、舞台を要する発表会や定期演奏会での利用も多いことから、現状と同様に固定舞台のある空間が望まれる。
また、落語、親子向け室内楽等では、満席に近い利用もみられる。
- 各種調査や市民ワークショップでの意見

区分	ホール機能に関する意見
利用者アンケート	運営面（サービス内容、取組）で特に重視することとして、 <u>「小規模なイベント・発表会の場や機会の充実」</u> や <u>「市民が文化芸術を創造・発表することができる場や機会の充実」</u> の回答が多かった。
市民ワークショップ	使い方として「市民団体でも使いやすい」「ファミリーで楽しめる」等、規模として <u>「200人」「500人～600人」「700人」</u> 等が挙げられた。

 小ホールは300～500席程度を想定する。

VII 施設整備の考え方

■ 配置等の検討

- 更級通りや周辺の商業施設や教育施設等と連携し、居心地が良く歩きたくなるウォーカブルな空間づくりに寄与する配置とする。
- 五井駅からの人の流れを考慮した施設配置、動線とし、更級通りに面してオープンスペースなどを設け、賑わいの創出につながる快適な空間とする。
- 駐車場は、市民や利用者アンケート等での意見及び市内外からより多くの人に利用される施設を目指す観点から、300台～500台程度を想定する。



■ 想定敷地面積の算出

- 以上の必要機能及び配置等の検討を踏まえ、敷地面積としては、3.5～4.2ha程度を想定する。

VII 施設整備の考え方

■ 文化交流施設検討委員会

● 第3回 令和6年5月30日

- 議事：文化交流施設の基本理念・基本方針等について
- 主な意見

【基本理念・基本方針について】

- ・理念や方針には、**市原らしさ**が感じられるとよい。
- ・方針の「**緑があふれ、来庁者に安らぎや癒しを与える施設**」を踏まえ、**緑を上手に取り入れた**文化交流施設になるとよい。
- ・歴史遺産やアートなどの**情報発信拠点**になるとよい。

【機能・設備について】

- ・最近の良いホールは**オープンスペースが豊か**な施設が多い。また、オープンスペースは**屋外に限らず、施設内部にも設けて交流の場とする**ような視点も必要である。
- ・ウォークابل空間との連携は望ましいが、**駐車場を広く確保することとの両立にはジレンマがある**。
- ・整備する機能について、**ニーズを全て盛り込むことはできない**。
- ・リハーサル室や五井会館4階ホールの代替となる部屋は市民利用が想定される。会議室等も市民の活動に兼用できる場合があるため、**機能毎にそれぞれ部屋を作らなくても構わない**、という発想で検討していくとよい。
- ・**大ホール**の席数は**1,500席程度で妥当**だと思う。
市民利用が主である**小ホールは現状の席数（約500席）から減らす検討**も必要である。

Ⅷ 今後のスケジュール

■ 今後の主なスケジュールは以下を想定する。

	令和5年度			令和6年度			令和7年度				
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
基本構想策定						★ 素案パブコメ実施 (9月) ★ 案作成 (11月)					
											★ 基本構想策定 (3月)
基本計画策定											
											★ 素案パブコメ実施 (9月) ★ 案作成 (11月) ★ 基本計画策定 (3月)
民間活力等導入可能性調査											
											民間事業者ヒアリング等
市民ワークショップ											
											★ シンポジウム (10/26予定)
文化交流施設検討委員会 等											※ニュースレター等により随時情報発信